

# 小学校体育の表現領域におけるラベルワークの有用性

土井 聖蘭 (富山大学)

## 1. 目的

本研究では小学校体育の表現領域におけるラベルワークの教育的可能性について、小学校の授業実践を分析し、その課題整理から今後の実践方法について提案することを目的とした。

## 2. 研究方法

平成 29 年 5 月 31 日(水)～6 月 21 日(木)の計 7 時間、A 小学校 6 年 1 組 (男子 18 人、女子 17 人) を対象とし、表現運動の創作過程で作成したラベルワーク (写真 1) が各チームにおいて効果的であったのかを、以下の 5 点から分析した。

- ・授業観察：A 小学校 6 年 1 組 35 名
- ・授業者へのインタビュー：A 教諭、授業者からの視点
- ・ラベルワーク結果分析：付箋、各チーム 5 人
- ・振り返りシートによる分析：自由記述
- ・論文検索：ラベルワークの手法と授業者の工夫

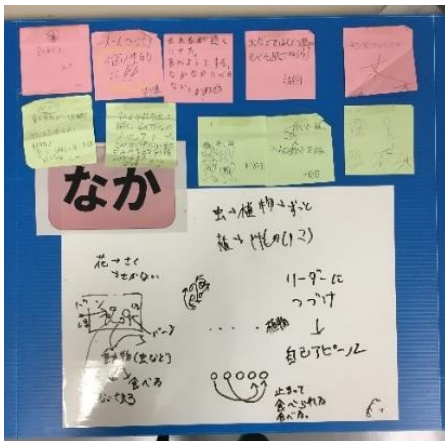


写真 1. 児童が作成したラベルワークの一部

## 3. 結果と考察

### 1) 授業実践の課題の整理

対象児童は、創作ダンスにラベルワークを取り入れることで、自分では考えつかなかった意見が出てくるおもしろさを感じ、意見を言うばかりではなく、意見を聞くことの大切さに気づくことができた児童やチームのまとまりを感じるようになった児童がいた。しかし意見が多く出すぎるにより、動きが決まらず、チームに対し不満やいらだちが出た児童もいることがわかった。以上の点から、小学校体育の表現領域においてラベルワークを取り入れること

は有効な手法であるが、考えが複雑にならないようなラベルワークの実践方法を検討する必要があることが示唆された。

### 2) 表現運動におけるラベルワークの手法の提案

筆者が考える小学校体育の表現領域に取り入れるラベルワークの手法を林(1)の理論と澤(2)の実践にもとづいて、改良・開発した手順書(①～⑦)とラベルワークの理想的な手順を以下に示す。

- ①子どもたちが最も表現したいテーマを決める。  
(例：花火が打ちあがるころ)
  - ②ラベルを作成する。
    - ・ラベルの枚数は 1 人 2～3 枚。
    - ・記入箇所が縦 3 cm、横 7.5 cm で 4 行の横線が入っているラベルにする。
    - ・1 枚に 1 つのことだけを書く。
    - ・誰が読んでもわかるように、具体的に書く。
    - ・氏名をはっきりと書く。
    - ・1 枚は必ずオノマトペを書く。教師が例として挙げているオノマトペの中から子どもの考えと合うものをえらぶ。子ども自身が作り出したものでもよい。
  - ③自分の意見を書いたラベルを左隣の人に渡す。
  - ④1 人ずつ手元にあるラベルを 1 枚ずつ真剣に読み上げ、同じ、または似たような意味内容のラベルを折り紙に集める。手持ちがなくなるまで続ける。折り紙に乗せたら看板(注)を書くスペースを空けて糊付けする。
  - ⑤折り紙にテーマを意識した看板を書く。看板は具体的な動きを文章やイラストにする。
  - ⑥「なか - 1 番盛り上がるころ - 」と書かれている模造紙(縦 20 cm、横 30 cm)に折り紙を空間配置していく。その際、頭で考えずに、手や体を動かしながら考える。ひと流れの動きにするために、新しく動きを作り出してつなぎやすくしてもよい。(例：図 1「火の粉がひらひら散っていく様に静かに移動」)
- (注) 看板：折り紙に集まったいくつかのラベルが最終的に何をいわんとしているかをよく聞いて、その内容を文章で表したものの。

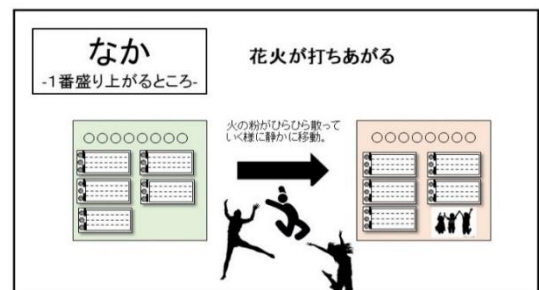


図 1. 表現領域におけるラベルワークの理想像

<参考・引用文献>

- 1) 林義樹編, ラベルワークで進める参画型教育, ナカニシヤ出版, 2015.
- 2) 澤聡美, 三浦光司, 竹村哲. コミュニケーション能力を向上させるための関わりを重視した創作ダンスのデザインに関する研究, 日本創造学会論文誌. vol. 19, 32-42.